

分子性導体研究の最前線

クーロン相互作用と分子自由度が生み出す新たな展開

2018年

1月11日 木 14:00-17:00

早稲田大学 西早稲田キャンパス (副都心線・西早稲田駅)
55号館N棟1階 第二会議室

講演

「分子性導体の理論的研究の現在と未来」

妹尾 仁嗣(理化学研究所)

「分子性導体における電荷秩序、ディラックフェルミオン、
および光誘起現象について」

田中 康寛(中央大学)

「強相関電子系の大規模数値シミュレーション：
フラストレーション系とダイナミクス」

白川 知功(理化学研究所)

趣旨

低分子結晶を構成要素とする分子性導体は、物性物理学の重要な研究舞台の一つとして精力的に研究されている。近年、クーロン相互作用と分子の持つ多様な自由度から生み出される新奇現象が数多く報告され、新たな展開を迎えている。本講演会では理論研究の最前線に携わる三人の研究者を招き、分子性導体研究の概括から個別のトピックまで幅広い内容の講演をしていただく。

主催：早稲田大学 高等研究所 (WIAS, Waseda Institute for Advanced Study)

世話人：渡部 洋(早稲田大学高等研究所)

問合せ：h.watanabe@aoni.waseda.jp

※参加費無料、事前申込不要